

「考え、議論する道徳」の授業づくり

～「やまぐちっ子の心を育む道徳教育」プロジェクト

2年次推進校の実践～

山口県教育庁義務教育課 令和7年3月

山口県教育委員会では、学習指導要領の趣旨並びに、児童生徒、学校、家庭及び地域等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育の推進と道徳科の授業についての実践研究を行い、その成果を普及することを目的として、「やまぐちっ子の心を育む道徳教育」プロジェクトを実施しています。

このリーフレットでは、本プロジェクトの2年次推進校（令和5・6年度指定）の実践事例を紹介しています。指導案等の資料は、義務教育課のHPに掲載していますので、今後の道徳教育の充実と道徳科の授業づくりの参考としてください。

【各学校の実践事例の見方】

研究主題 学校名

①研究概要：令和6年度取組の概要紹介

②道徳セミナーにおける公開授業

③2年間の研究を通して、ア 道徳科の授業改善 イ 道徳教育の充実 のために必要と思われるポイント



義務教育課HP



自分の考えをもち、互いに学び合うかみのせきっ子の育成
～考え、議論する授業実践による人間力の向上をめざして～

上関町立上関小学校、上関中学校

① 本校では、施設隣接型小中一貫校のよさを生かし、「郷土における地域素材・地域人材を活用した授業」「心を耕し、実生活に生きる授業」「小中一体となって取り組む道徳科の授業改善」の3つを重点的に取り組んだ。

- ② 小学部第2学年 みんなのことを考えて 「黄色いベンチ」
- 小学部第6学年 節度をもった生活 「食べ残されたえびになみだ」
- 中学部第1学年 節度を守る 「釣りざおの思い出」



- ③ ア 地域素材・地域人材の活用や教師の問い返し等を通して、ペアの対話・議論等に深まりをもたせ、多面的・多角的な思考を引き出すための授業づくりの工夫をすること。
- イ 心を耕し実生活に生きる道徳教育を展開するため、各教室や廊下等に道徳コーナーを設け道徳の学習のあしあとを共有し、地域・家庭・学校が連携して道徳教育の充実をめざすこと。

温かいかわりの中で深め合い、自己の生き方に生かす道徳の在り方について
～他者との多様なかわりをおして、考えを深める道徳の工夫

山陽小野田市立厚狭小学校

① 本校では、「授業」「道徳教育」「教育課程」の3つの柱を立て、その中心に「地域連携教育」を据えることで、地域の様々な人とのかわりを創出するとともに、多面的な見方、考え方ができるよう授業の在り方を工夫し、子どもの道徳的心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を育んだ。

- ② 第2学年 正しいと思うことを 「ある日のくつばこで」
- 第3学年 みんなが楽しく 「ぼくのボールだ」
- 第6学年 深い思いやり 「最後のおくり物」



③ ア 3つの視点（視点1：ねらいとする道徳的価値の理解を深める発問の工夫、視点2：子どもたちを繋げる交流のもち方、視点3：地域の方の参画）に沿って授業をつくること。

イ 掲示や校内放送などで道徳科の学びを伝えたり、温かいかわりを認めたりして児童の意識を高め、学校・地域連携カリキュラムと連動させて、道徳科の授業と実生活を往還させること。

温かな関わり合いの中で、よりよく生きようとする「佐波っ子」を育てる
～過去・現在・未来をつなぐ 道徳教育を通して～

防府市立佐波小学校

① 本校では、道徳教育のスローガンを「つないで たねをまく」と設定し、以下の3点について重点的に取り組んだ。

- ・「経験と授業をつなぐ」→ローテーション道徳による日頃の授業改善、一人一授業の公開
- ・「学びと生活をつなぐ」→年間指導計画及び別葉の作成・活用、学年掲示板「心の足あと」
- ・「家庭・地域をつなぐ」→人権教育・道徳教育参観日、地域参加型授業の実施、各種お便りの配布

- ② 第1学年 ともだちがいいな 「こころはっば」
- 第3学年 わたしたちの学校 「みんなの学校なのに」
- 第6学年 友情を深める 「ばかじゃん！」



③ ア 3つの視点（視点1：過去の経験を想起し、全員が自分事として考えたい導入、視点2：現在の自分の心と本気で向き合える発問構成と対話の場の工夫、視点3：未来の自分に期待を込めた振り返りと実践機会の設定）に沿って授業をつくること。

イ 道徳科の授業を通して、何を学び、どのように生活に生かすことができそうか、児童が視覚的に振り返ることができるよう、板書や授業のポイントを年間通して掲示すること。

主体的にかかわり合う児童生徒の育成をめざした授業づくり
～語り合いを通して考え深める道徳科の授業の工夫～

岩国市立平田中学校

① 本校では、「小学校と連携した道徳教育の充実」「授業づくり」「自己肯定感および自己効力感の醸成」の3つを重点的に取り組んだ。

- ② 第1学年 誠実な生き方 「裏庭でのできごと」
- 第2学年 強く気高く生きる 「足袋の季節」
- 第3学年 公共の場での心構え 「自分・相手・周りの人」



- ③ ア 3つの視点（視点1：主体的にかかわりあう工夫・視点2：語り合いを通して考えを深める工夫・視点3：自分事として捉える工夫）に沿って授業をつくること。
イ 「いいところみつけ」や「道徳通信」を通して、自己を振り返ったり、自己肯定感や自己効力感を高めたりする工夫を全校体制で充実させること。

「温かみのある賢さ」を育成する道徳教育の推進
～思いを語る、つなぐ、深める授業づくり～

下松市立末武中学校

① 本校では、すこやか部会（学級集団づくり）、まなび部会（ICTの活用と構造的な板書）、こころ部会（振り返り活動と発問の工夫）の3つの部会テーマを設定し、それぞれが『末中スタイル7カ条』をベースにコミュニティ・スクールの連携・協働体制を生かして全校体制で研究に取り組んだ。

- ② 第1学年 働かってどんなこと? 「新しいプライド」
- 第2学年 気持ちを込めて 「心に寄り添う」
- 第3学年 新しいものを生み出すには 「日本から世界へ、そして宇宙へ」



- ③ ア 心理的安全性の高い学級集団づくりを基盤に、学んだ価値を語り合う振り返り活動に取り組み、思考が深まる発問や効果的なシンキングツールの活用を模索したこと（3つの部会を統合・実践）。
イ 道徳科は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の「要」という意識を常にもち、『語る』『つなげる』『深める』ことを各教科においても、見える化・共有化して実践することで、「温かみのある賢さ」につなげていくこと。

自己を見つめ、人間としての生き方についての考えを深める生徒の育成
～道徳科の中心発問の工夫と振り返りの充実を通して～

下関市立日新中学校

① 本校では、「多面的・多角的に考えられる中心発問の工夫」「人間としての生き方についての考えを深める振り返りの在り方」を研究の視点として取り組んだ。道徳科のすべての授業で中心発問の記録、授業者による自己評価を行うことで、日々の授業改善を図った。道徳科の授業づくり研修会、研究授業を通して中心発問と振り返りの在り方についての研修を深めた。

- ② 第1学年 心から信頼できる友だち 「近くにいた友」
- 第2学年 強く気高く生きる 「足袋の季節」



- ③ ア 多面的・多角的に考えられる中心発問づくりを行い、授業展開を工夫して話し合う時間や振り返りの時間を十分に確保すること。
イ 道徳科の授業づくり研修会や道徳科の研究授業を通して、中心発問や授業構想について話し合い、日々の授業実践に生かしていくこと。

主体的に取り組む生徒の育成
～自ら考え、議論する子どもの姿をめざして～

長門市立日置中学校

① 本校では、「学校行事やボランティア活動等、教育活動全般における道徳教育の充実」「自ら考え、議論する子どもの姿をめざした授業づくり」の2つを重点的に取り組んだ。

- ② 第1学年 認め合う心 「言葉の向こうに」
- 第2学年 生命とは何か 「看取りの医者」
- 第3学年 自分の生き方 「アイツの進路選択」



- ③ ア 主体的に考え、議論が活性化するような発問を工夫したり、つなぎ言葉やリアクションを意識させ価値付けたりしていくこと。
イ 物事を多面的・多角的に捉え、自己の生き方についての考えを深められるよう、ICTを効果的に活用したり、学校・地域・家庭が共に豊かな心をもつ生徒の育成をめざし、意見を交流する場をもったり、発信したりすること。